担任先生に聞く
ホームルーム最前線 第52回

全国の担任先生を訪問して、
元気なクラスづくりのためのヒントを伺うこのコーナー。
今回は、クラスの環境づくりに力を入れ、生徒が目標に向かって
全力で臨めるクラスをめざす先生にお話を伺いました。

Profile
川畑 和美教諭
教職歴：12年目
担当教科：美術
分掌：3学年担任、教務部

鹿児島県 曽於高等学校

学習に集中でき
そのための「環

Q&A 先生への一問一答

Q.クラス運営で最も重視しているポイントは？

「人が環境をつくり、環境が人をつくる」をモットーに、掃除や掲示物の整理、備品管理などを徹底して、機能的で美しい環境づくりを心がけています。そうすることで、生徒の心身の健康につながり、学習への集中力も高まると考えています。前任校から続けているこの取り組みのおかげで、今のクラスは一体感が生まれ、学習に向かう姿勢も変わったと手ごたえを感じています。

Q.教員になった理由は？

教員をめざしたのは、高校の美術部が充実していたことがきっかけでした。そして、非常勤講師として勤めた学校で、様々な事情で希望進路に進学できない生徒の存在を知り、県内のどこに住んでいても質の高い美術教育を受けられるようにしたいと考えたことが、教員をめざす強い決意とその後の職業観につながっています。

Q.好きな言葉は？

「初志貫徹」

できない理由を言う前に、できる工夫を考える方が楽しく、前向きに仕事ができます。ただし、他者の忠告やアドバイスに耳を傾けながら、よりよくするための変化は厭わないという姿勢が大切だと思います。

Q.気分転換の方法は？

油絵を描くことです。絵に没頭できる時間は何より貴重ですね。ただ、絵を1枚完成させようと思うと、仕事とは別の悩みが出てきてしまいますが。

若手時代の気づき

情報を集められる環境を整えれば生徒の可能性を伸ばしていける。

環境づくりを大切にされている川畑先生。まずは曽於高校に赴任された際に気づいた改善点についてお聞きしました。

「地方の高校共通の悩みだと思いますが、周りに情報がとても少なかったんですよ。例えば、大学進学を考えたときに、都会の進学校であればすぐに集まるような情報でも、なかなか集まりにくいところがあり、生徒の進路の選択肢から大学進学が外れがちだったんです。しかし、本校の生徒も多くの可能性を秘めていて、努力する方向性を示すことができれば、いくらでも伸びていくことができるはず。そのためには、生徒が将来の目標を考えるための情報を集められる『環境』を整えることが重要だと考えました。」

生徒に求めること

卒業後の進路は様々でもいつかは地元に還元してほしい。

将来の目標を見つけて巣立っていく生徒に対し、川畑先生はある思いを抱いているそうです。

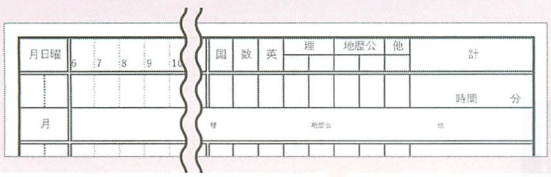
「努力する方向性、つまり将来の目標を見つけられた生徒はどんどん伸びていきます。そして、社会に出た時に、今度は生徒自身が社会の環境をつくる側に回ることになります。そのなかで、自分の学んだことを地元に還元できるような人材に育ってくれたらうれしいですね。大学に進学する生徒であれば、将来はリーダーになって地域社会を引っ張っていく立場になる可能性があります。もちろん、大学ではない進路に進んだとしてもいろいろな形で地元を盛り上げることができると思います。生徒には、自分の育った曽於市に対して、何かしら貢献できる人材になってほしいですね。」

る。自分の可能性に気づく。
境」づくりが大切なんです。

現在の取り組み

生徒把握の最重要ツール
「学習の軌跡」

「学習の軌跡」は、生徒と毎日コミュニケーションを取ることができる重要なツールです。1日のスケジュール、学習時間、学習内容はもちろん、月間・年間の目標、今日は何に取り組んだのか、それに対してどう感じたのかといった生徒の心情まで記入させているので、生徒の現状がこの冊子だけで把握できます。また、模試の成績表までまとめているので、特に学習面について365日、コミュニケーションを取りながら振り返りをさせることができます。



毎日記入させることで
学習の取り組みを蓄積・管理できる

面談ツールとしても
活用

進路情報に触れる機会を増やす
「仮想大学入試」

生徒には1年次から1月の進研模試を本番の大学入学共通テストと想定して取り組ませています。志望理由書を書かせ、私が作成した受験票に記入させたうえで、可能な限り本番と同じ形で模試を受験させています。「合格ライン」を活用して、仮の判定まで出すようにしているため、大学や職業についての情報に触れる機会を増やすことができ、自分がどこに向かって努力すべきなのかという目標を見つけることができます。

1月模試を
仮想入試として受験

進路情報に
触れる機会が増える

生徒が進路目標を
発見できる

準備段階から授業に向かう姿勢をつくる
「教科連絡表示板」

教室には、1日の時間割や教科ごとの連絡事項を記入できる「教科連絡表示板」を設置しています。これは、生徒にしっかりと準備を整えてから授業に臨んでほしいという思いからつくったものです。生徒の「忘れました」という言葉は教科担当の先生方のモチベーションに大きく響いてしまいますからね。そのため、表示板には生徒自身に連絡事項を記入させて、準備段階から授業に向き合う姿勢をつくらせています。また、見た目が色鮮やかなので、教室の雰囲気づくりにも役立っています。

生徒自身に記入させる

生徒だけでなく
先生方の
モチベーションアップにも

生徒との距離感を保ちつつ、
先生方との情報共有は欠かさない

生徒の状況を把握することは大切ですが、あまり距離が近すぎると逆に見えていない部分が出てきてしまうのではないかと考えています。そのため、生徒と接するのはタイミングを見計らい、「学習の軌跡」なども利用しながら生徒把握に努めています。さらに、先生方との情報共有は欠かさないようにしています。特に、副担任や教科担当の先生方とは密に情報を共有し、生徒を把握しながらクラスの方向性について話し合うようにしています。

生徒とは
近づきすぎない距離を保つ

先生方との情報共有は
欠かさない